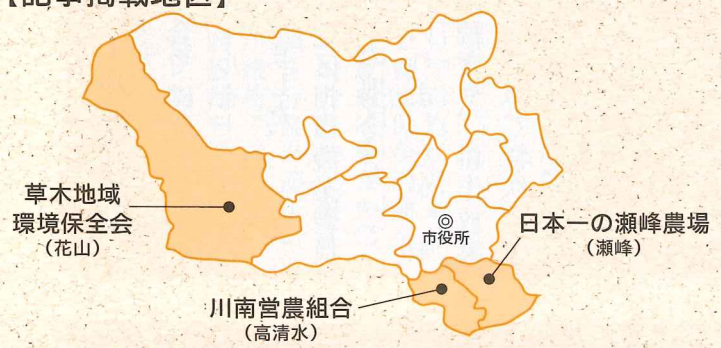
くりはらし

農業委員会だより

第10号
平成21年4月1日発行

子ども達による生物の生息状況調査（花山草木地域環境保全会）

【記事掲載地区】



主な内容

○ 農政委員会を設置しました ……２Ｐ
○ 祝 農林水産大臣賞 瀬峰農場 ……３Ｐ
○ 認定農業者との意見交換会ほか …４Ｐ
○ おらほの活動（高清水・花山）……５Ｐ
○ 農業委員会からのお知らせ ……６Ｐ

発行：栗原市農業委員会　編集：栗原市農業委員会だより編集委員会

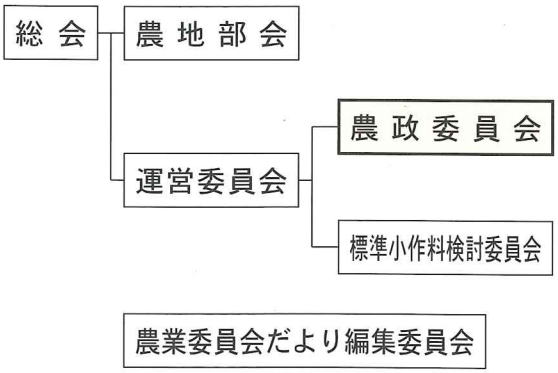
〒987-2293　宮城県栗原市築館薬師一丁目7番1号
TEL（0228）22−1184　FAX（0228）22−0316
メールアドレス　nogyoiinkai@kuriharacity.jp

農業委員会に農政委員会を設置!!

1月30日に開催された、平成21年第1回栗原市農業委員会総会において、栗原市農業委員会農政委員会設置要綱が議決され、農政委員会が設置されました。

農政委員会では、農業振興を図るため、農業・農村及び農業者について行政機関等に意見又は要請すべき事項や農業生産・農業経営の合理化及び農村生活の改善と、その他の重要な事項について、それぞれ調査研究するとともに、これらに関し必要と認める事項について栗原市農業委員会会長に意見を述べることができる組織です。当面は、「遊休農地対策」、「農業政策の研究・研修」、「地域の問題の把握」を大きな柱として活動を展開してまいります。

農業委員会組織図



委員長挨拶

農地法改正を含め農政が大きく変革している中、農業委員会に農政委員会が出来たことは、大きな意義があり、特に栗原市は農業が産業の中心であり、市の活性化には農業振興が不可欠といっても過言ではありません。

農政委員会は農業者の代表として、農政・農業情報の収集、認定農業者・担い手との意見交換等を行い、農業現場の声を取りまとめ、それらの問題について調査・研究を行いその結果を農業委員全員が共有すると共に、農業委員会の声として、発信できるよう努めてまいります。

皆様には、農業委員会になお一層のご理解とご協力をお願いいたします。

構成員は次のとおりです。

委員長　黒澤　光啓（一迫）
副委員長　菅原　英俊（鶯沢）
委員　高橋　馨一（築館）
小野　大介（若柳）
菅原　徹（栗駒）
佐藤　和朋（金成）
及川　正一（高清水）
大内　一也（瀬峰）
三浦　初男（志波姫）
千葉　優子（花山）

農地パトロール実施状況

農業委員会では栗原市内の農地パトロールを十一月に実施してまいりました。

その後、地区担当農業委員が、それぞれの地区において、指導してまいりましたが、未だ転用の手続きや、耕作放棄地の改善には至っておりません。現在の転用指導農地・荒廃指導農地の状況は次のとおりです。

なお、今後においても地区担当農業委員がご協力をお願いしてまいります。

【転用指導農地】
第2農地部会
6筆　6名　4,358㎡
【荒廃指導農地】
第1農地部会
43筆　27名　72,669㎡
第2農地部会
116筆　68名　115,125㎡
第3農地部会
136筆　50名　213,278㎡
【合計】
301筆　151名　405,430㎡

農業者年金に加入しましょう！　農業者年金は保険料の額を自由に決められる年金です。
詳しくは、農業委員会事務局へお問い合わせください。　電話　22－1184

祝　日本一の瀬峰農場

第14回全国環境保全型農業推進コンクール大賞（農林水産大臣賞）受賞！

この度、栗原市瀬峰地区循環型農業推進会議「瀬峰農場」は、良質堆肥による土づくりをベースにした循環型農業に地域の担い手を中心とした殆どの農業者が取り組み、環境保全米の作付割合55％（H20）、園芸でのエコファーマーの認定取得30名を実現。また、疎植栽培や浅水代掻きによる濁水の発生抑制など先進的な取り組みも実践してきました。こうした、担い手が自発的に取組んだ6年間で、地域全体の農業スタイルを「環境保全型農業」に改革を成し遂げ、生物・植物・水質の環境に好影響を与えていることが高く評価され見事大賞に輝きました。

全国レベルで評価されている「瀬峰農場」とは、地区内の担い手が対話を重ね「耕畜連携・資源循環型農業」を手段に、地区内で生産された農産物の「有利販売」を目的に推進してきた仲間の集まりです。

農家相互の技術研鑽と創意工夫で良質堆肥製造6千トンと施用システムの構築を実現。これを基盤に、環境保全米は平成21年産で7割に、園芸振興作物（ミニトマト、かぼちゃ等）の販売額は5千万円近くに増加。更には、優良草地200haの確保、50haのホールクロップサイレージ栽培と10haの自給飼料化等も進めてきました。

また、瀬峰農場で作られた環境保全型農産物には、「エコ・せみね」のロゴマーク（商標登録）を添付し、「安全・安心・おいしい農産物」を「有利販売」しています。こうして、瀬峰地区を一つの農場とする「瀬峰農場構想」が定着し、地区内外との交流活性化や青年後継者育成、耕作放棄地の解消等大きな成果を上げています。

現在では、エコ・せみね米等の農産物即売会や企業とのコラボレーションによる販売促進PR活動を展開する一方、「瀬峰農場」PR―DVD作成配布、農業体験ツアー、田んぼアートの実施、バレーボールVリーグの「パイオニアレッドウィングス」に所属するオリンピック日本代表のエースアタッカー「栗原恵」選手との交流等、様々な次元での関りを深めながら、新たな「瀬峰農場」ファン獲得にJA栗っこ瀬峰支店を販売営業PR拠点とし、目下邁進中です。

更には、「地域自体をブランドにする事が可能では」との識者からのエールも頂いており、近々これにも着手していく事としています。

佐々木　健太

▲「エコ・せみね」田んぼアートに参加した地元の子供たちと親子さんら

「瀬峰農場」、「エコ・せみね米」等に関する問い合わせ
JA栗っこ瀬峰支店営農課
TEL３８－２１３９

みんなで、読もう！　全国農業新聞　発行日　毎週金曜日　購読料／１ヶ月600円（送料込）
お申し込み・お問合せは　栗原市農業委員会事務局まで　電話　22－1184

活動報告

農業委員と認定農業者との意見交換会

2月19日、ＪＡ栗っこ築館支店大会議室を会場に開催され、活発な意見交換が行われました。

意見交換会に参加して、認定農業者の意見を直接お聞かせいただく場としていい機会だと思いました。

新聞報道にも掲載されましたけれども、昨年の100ha以上の超過転作で、農家に大きな損失が発生したことなどの農業経営の厳しい状況について意見がありました。

農業者を代表する農業委員として、情報の的確な把握と発信が欠かせないとつくづく感じた会議でもありました。

水田農業構造改革対策では、中山間地等、条件の不立地地域に対しての運用のあり方や、「食料・農業・農村基本計画」の見直し、さらに「農地改革プラン」など問題は山積されておりますが、食料は我々人間の「生命の糧」であり「農は国の基」であることを信じ、安全・安心な食料を供給できる豊かな農業を目指し、認定農業者とともに歩みを進めてまいります。

（農業委員　菅原　正雄）

この度、初めて認定農家の一人として、農業委員の皆さんと一堂に会して意見を交わす機会を得ました。

第一部の研修として、宮城県農業会議農政部長の粟野一男氏より「食料・農業・農村基本計画」の見直しと「農地改革プラン」と題して講演を拝聴致しました。

要約しますと、「食を巡る世界的な環境変化に対応し、食の安全、安心を長期的に確保するため、食料自給率50％への引き上げが大きな政策課題という。その為、優良な農地を確保し、農地の所有と利用の分離を推進し、農地の有効利用を図る」ということでした。私も食料自給率を引き上げることに大いに賛成であります。

栗原市農業委員会も農政委員会を立ち上げたと聞きました。是非とも、全ての農家が意欲の出るような制度を設け国が責任を持って示せるように、要請して欲しいと言うのが、所感であります。

（認定農業者　高橋富美雄）

活動報告

第3回女性農業委員等研修会

1月21日、平成20年度第3回女性農業委員等研修会が仙台市ＫＫＲホテル仙台で開催され、出席しました。

宮城県農業会議より、農地改革プラン、新しい農地改革のポイントについて詳しく説明をいただきました。

東北大学大学院農学研究科の伊藤房雄教授による食農教育推進ポイントについての講演がありました。給食を通した食育・グリーンツーリズムの推進・地産地消の推進・食文化継承など生産者・消費者が一緒に推進することが大切であり、この推進が地域の活性化に繋がり、人々が誇りをもって働く動機付けになればと、話されました。女性農業委員として、これからの活動のポイントをいただいた有意義な研修会でした。

（鈴木　春江）

▶研修会の様子

活動報告

家族経営協定で夢のある農業を

今まで明確になっていなかった作業の分担や、休日、給与等を話し合いで決め書面に記載し、県と農業委員会立会いのもと、調印いたしました。

このことにより、家族で仕事に対する「責任」を持てるようになりました。調印式と言っても三十分程度ですぐに終わる和やかなものでした。

これからは、協定に基づいて、私自身の意見も主張しつつ、家族で話し合い、農繁期等で忙しい時にはお互いに助け合いながら、消費者の方々により良い農産物を提供できるように家族共々頑張っていきたいと考えています。

（金成　熊谷　講平）

▲家族経営協定を締結された熊谷さん一家

農業者年金に加入しましょう！　農業者年金は保険料の額を自由に決められる年金です。
詳しくは、農業委員会事務局へお問い合わせください。　電話　22－1184

おらほの活動
～新農政への取り組み～

高清水　川南営農組合（集落営農活動）

平成19年4月、経営所得安定対策を機に集落内で話し合いを重ね、組合員25戸（面積65ヘクタール）の参加を得て「川南営農組合」を設立、特定農業団体の認定を受けました。

主な経営部門は、水稲・大豆・飼料用稲（ＷＣＳ）で、水稲は江刺方式とし、転作大豆は「西小山田オペレータ組合」（作業受託組織）に作業を委託し、コストを削減した効率的な生産を行っています。

ＷＣＳは浅野転作組合の中で集積・団地化を図り耕畜連携の一翼を担っています。

▶組合員に説明する高橋組合長

これまで集落営農先進地視察研修を実施して法人化や組織運営について勉強したり、転作大豆の所得向上のため、湿害回避や雑草防除に有効な新技術を積極的に導入し良品質大豆の生産に努めてきました。

▲大潟村での視察研修

今後は、自分たちの集落の将来に向け、経営が安定・発展するような取り組み（環境保全米の生産・園芸作物の導入）を積極的に行い、集落営農を核とした地域農業の活性化を目指していきたいと考えています。

組合長　高橋　幸輝

花山　草木地域環境保全会（農地・水・環境保全活動）

私たちの地区は、迫川の支流に位置する草木川を水源とする山間の農村集落地であります。受益農地62haほどで、耕地は基盤整備されていない地域であります。年々大型化する機械等の導入により自力で、耕地の拡張整備が行われてきました。そのため、用水路等の農業施設が不十分で適正な保全・管理維持が出来ない現状にありました。

平成19年から始まった「農地・水・環境保全向上対策」は地域住民から、これからのことを解決すべき手段として大きな期待が寄せられています。

▲イワナの放流を行う子ども達

共同事業を実践するため「草木地域環境保全会」を結成し、農地・農業用水等の資源や農村環境の保全とその向上を図るため、次の活動を実践しています。

「基礎活動」として、農地・水路・農道の草刈り、敷砂利・江払い、そして「農地・水向上活動」としては、特に遅れている水路の補修・改修等を計画的に進めています。

また、「農村環境向上活動」として、地域の交流や花壇の植栽・草取り清掃等、また、漁業組合やＰＴＡの協力を得て、小学生を対象に地域内の生物調査や岩魚・山女の放流等も行っています。

今後、過疎化や高齢化、後継者不足等の進行に伴い、集落機能が低下し適切な保全管理活動が困難になってきています。

農業者だけではなく非農家や各団体等で資源保全活動を行うための合意形成をさらに強くし、地域内の農地・農業用水等の資源を今後も適正に保全・管理が維持できるよう計画的に共同活動を地域住民の協力のもとに実践していきたいと思います。

会長　菅原　武義

みんなで、読もう！　全国農業新聞　発行日　毎週金曜日　購読料／１ヶ月600円（送料込）
お申し込み・お問合せは　栗原市農業委員会事務局まで　電話　22－1184

農業委員会からのお知らせ

現況届は忘れずに提出を!

現況届は、受給者が生存しているか、経営移譲年金受給者にあっては、農業経営の再開や農地が返還されていないか確認するための届出です。

現況届が届く時期は…

用紙は、**５月末日頃**に農業者年金基金より、直接ご本人あてに送付します。

現況届の提出時期は…

現況届は、**６月１日から６月３０日**までに農業委員会又は、各総合支所に提出してください。

現況届の提出を忘れると…

１１月の支払いから現況届が提出されるまでの間、**年金が差し止められます**のでご注意ください。

◎住所や年金受取口座などの変更がある場合は、ＪＡ栗っこ各支店で手続きしてください。

経営移譲年金を受給されている方は、下記にご注意ください。

《諸名義は、経営移譲の相手方に変更していますか？》

① 農業共済組合関係　② 転作助成金交付申請名義
③ 農業所得納税申告名義　④ 農業協同組合 組合員名義
⑤ 土地改良区 組合員名義　※ 第三者移譲の場合は、①②のみ変更

《年金の支給停止に該当するようなことはありませんか？》

① 農業の経営を再開した。　② 農業生産法人の組合員・社員・株主となった。
③ 経営移譲した農地が返還された。　④ 経営移譲した農地を売買、転用した。　など

※ きちんと届出をすれば、支給停止にならない場合もあります。農地の移動がある場合は、事前に農業委員会へご相談ください。

【問い合わせ】農業委員会事務局　℡２２－１１８４
ＪＡ栗っこ推進企画課　℡２３－２１０４

編集後記

「くりはらし農業委員会だより」は、県の優秀賞として全国コンクールに推選されるとの評価をいただき胸の高鳴る思いです。

さて、農業政策はめまぐるしく変わり、混沌とした昨今です。生産調整も作付け計画のなか、安全な食料自給とエコを考えた基本産業として益々変革されるところであり、耕畜連携の花弁園芸など地域の消費拡大を目指して地域経済の糧を担っております。

栗原市のみなさんへ経済の橋渡しとなる情報提供の役割を果たせるよう活動しております。

隅々まで目を通して頂きたい思いです。今後ともよろしく御愛読願います。

白石　晃

国が支える。
安心が大きくなる
担い手積立年金
「担い手積立年金」は
農業者年金の愛称です。
農業者年金の
ホームページもご覧下さい。
http://www.nounen.go.jp/